

# 16 ワンタッチ防蜂網の改良型について

川井営林署 ○因幡 貞雄  
熊林 松雄  
関 雅彦

## 1 はじめに

防蜂網については、いままで改良に改良を重ねてこられました、その中であって今年度配付された防蜂網は従来型に比べて大分改良され現場での装着は容易になりました。

しかし、現場で実用するなかで、我々現場からいくつか問題点が指摘されました。

そこで私たちはこれらの問題点を解消し、より容易に装着することができないか、また、今まで私たちは安全は署から指導されるもの、言ってみれば常に受け身の態勢にあったのではないかという反省も含め、安全は自分たち自ら計画・立案することが大事ではないかという考えから、これらの問題点を解消すべく今回署から協力を得ながら防蜂網の改良テーマとして取り組んだ次第である。

## 2 研究の方法

(1) 先ず現在使用されている防蜂網の問題点を整理してみました。

- ア 背中に物がある時使用しにくい。
- イ 収納袋のネットが灌木等に引っ掛かりやすい。
- ウ メガネの部分がその日の天候によって曇って視界が悪くなる場合がある。
- エ 背負い袋の口にある樹脂板が何らかの拍子に割れ安全上問題がある。
- オ 携帯用のため忘れる場合もある。

以上が問題点として考えられることから先ず第一に、常時携帯できて瞬時に装着、しかも引っ掛からないためにどうするか、また、どのような型にすれば理想とする防蜂網が出来るか全員で話し合い、以前からの防蜂網についても比較しながらそれぞれイメージするものを黒板に描いて検討し、次の点を改良のポイントとしてしぼることとした。

### (2) 改良のポイント

- ア より早く、確実に顔をカバー出来ること。
- イ 常時保安帽に装着することから、素材は出来るだけ軽くし負担を少なくすること。
- ウ メガネについては蜂の危険が生じた時だけ網を下げることから特に必要性が無いと考え外すこととした。
- エ 出来るだけ身近にある素材を利用すること。
- オ 恰好にこだわらず手作りであること。

ということから

- ・提灯型で保安帽と一体型とすること。
- ・歩行の邪魔にならないよう防蜂網の収納に工夫すること。

以上のことによって最終的に理想的なものが作れるのではないかとの結論に達し試作することとした。

### (3) 使用した材料は

- ア 数年前に使用されていた網
- イ 同じく保安帽につけるツバ
- ウ 針金及び留め金
- エ 網を収納するための石油吸い上げポンプ（大）のジャバラホース
- オ 網の裾を体に密着させるためのゴム紐
- カ 網を下げるための紐

これらをもとにいくつか試作する中で工夫したことは次のとおりであります。

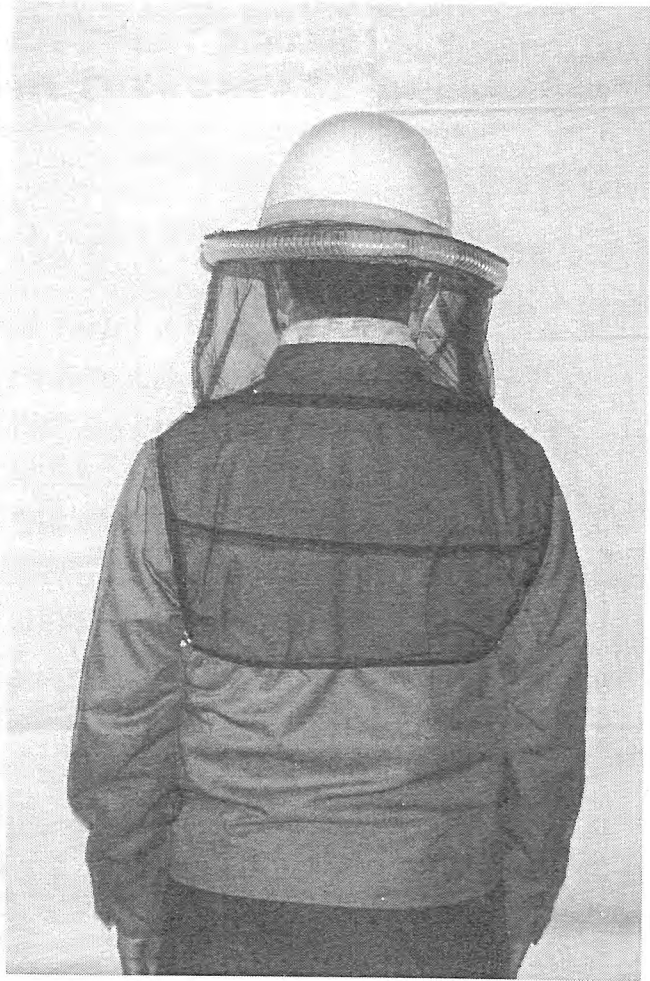
### (4) 製作する過程で工夫したこと

- ア ツバの大きさは歩行時に出来るだけ支障とならないよう、また、収納ケースが隠れる程度にするため8センチ（既製品）から5センチとした。
- イ 網が歩行中に、収納ケースから下がってこないようにした。  
（ジャバラホース収納口を0.5センチとした）
- ウ 収納ケースの太さは視界を妨げない程度の太さ（2センチ）とした。
- エ 肩口に切り込みを入れ、両端をゴム紐で結びその中に腕を通すことによって網の裾が体に密着し、蜂の侵入を防ぐようにした。

以上のことを研究テーマとして取り組んだ結果、完成したものが（写真-1）（写真-2）です。



(写真-1)



(写真-2)

### 3 おわりに

今回の研究テーマはいかなる現場の状況下においても携帯できること、また、完全に蜂から身を守れることを目標に取り組んだ訳ですが、若干取組が遅かったことから、あまり見栄えは良くありませんが、少なくとも当初考えていた問題点の解消については9割方達成出来たものと考えております。

今回のアイデアを基に材料等を吟味することにより、新しい蜂刺され災害防止用の保安帽の実用化も夢ではないのではないかと考えております。

いずれにしても重大災害につながりかねない要素を持っている蜂刺され災害の防止対策は、これからも一層強化していかなければならないものと考えております。

そう言う意味で今回発表した成果が、蜂刺され防止対策の一助となることを期待するものである。